

## クラシックバレエダンサーのボディイメージと Well-being の関係

大浦朱生（東海大学大学院）  
田巻以津香・松本秀夫（東海大学）

### I. はじめに

現在の日本クラシックバレエ（以下、バレエ）界は、成績重視・テクニック偏重の指導が行われていること（海野, 2012）や幼少期にトウシューズを履くことによる傷害の増加（蘆田, 2004）など、様々な課題がある。その中でも、女性ダンサーのボディイメージの歪みや、摂食障害の発症（筒井, 2003; Schaal, 2011）は、長年の課題とされてきたが、未だ解決には至っていない。

ボディイメージとは、「自分はどのようにみえるだろうかということ」（松橋, 2001）、「自分の身体に対する意識」（本山, 1996）などと定義され、自分自身の身体に対する認識であると言うことができる。ボディイメージは身体的・精神的・社会的変動に大きく影響されやすいと考えられており（森, 2003）、痩せていることが必要である女性ダンサーは、ボディイメージの歪みが生じやすいと言える。一方、痩せていることが成功と考えているバレエダンサーが多く存在することや、美的スポーツを行うアスリートは、痩せた身体であるほど身体的満足度や自尊心が高いことが指摘されている（Francisco, 2018）ことから、ダンサーとして理想とされる痩せた身体を持ち合わせていることは、Well-being を高めていると言え、個人的な満足感・幸福感には良い影響があるとも示唆される。さらに、自分自身が理想とする身体と自身のボディイメージのズレが小さいほど、Well-being は高まるのではないかと考えられる。

これまでダンサーのボディイメージについては、児童期における摂食障害の発症等、ネガティブな側面での研究が多く、今現在プロとして活動するダンサーのボディイメージの解明やそれに伴う Well-being との関係についての研究はほとんど行われていない。そこで、本研究は日本人女性バレエダンサーを対象に、①ダンサーとしての理想の身体と自身のボディイメージの差異を明らかにすること、②①で明らかにした差異と Well-being の関係を明らかにすることを目的とした。

### II. 方法

#### 1. 調査方法

①ダンサーとしての理想の身体と自身のボディイメージの差異を明らかにすること、②①で明らかにした差異と Well-being の関係を明らかにするために半構造化インタビューを行った。

#### 2. 調査対象及び対象抽出方法

対象者は理論的サンプリングを意識し、日本人女性バレエダンサー6名とした。具体的には、海外のバレエ団に所属するダンサー3名と日本のバレエ団に所属するダンサー3名である。

#### 3. インタビュー方法

インタビューは、Zoom Cloud Meetings を用いて行った。インタビュー時間は、約30分から45分程度とし、協力者の負担にならないように配慮した。

#### 4. インタビュー手順及び倫理的配慮

インタビューに際しては、「研究参加への説明書・同意書」を示し、説明を行った後、確認のチェックと署名を求めた。また、オンライン上で録音を行うことの同意を求め、全員がそれに同意した。なお、本研究は東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会の承認を受け実施されている。

#### 5. インタビュー項目

インタビュー項目は、バレエダンサーとして理想とする身体はどのようなものであるか、自分自身の身体をどのように捉えているか、またその身体への感情について発話を求めた。

#### 6. 分析方法

録音した音声をテキスト化し、得られたテキストデータは、文脈を重視した M-GTA による分析を行った。

### III. 結果及び考察

理想の身体として、「細すぎず、しなやかな筋肉が付いていて、引き締まっている身体・しっかりと踊れる身体が理想である」と発話するダンサーがほとんどであった。しかし、バレエ団によって求められる身体が異なり、特に日本のバレエ団の場合はいわゆるガリガリな状態でないとキャストイングされないことがあることや、所属ダンサーがどんどん痩せていっているとの発話があることから、理想の身体以上に痩せなければいけない状況にあることが示唆された。

自身のボディイメージについては、「細くもなく、太くもなく、筋肉がしっかり付いている」や「前はガリガリに痩せていたけど、今は程よい体型で好き」との発話があった。一方、自身で丁度良い体型だと思っても、「周囲にガリガリに痩せている人がいれば羨ましい」という発話もあり、痩せている身体が良いという意識があることが明らかとなった。

ボディイメージと Well-being の関係については、理想の身体になっている時、すなわち自身のボディイメージと実際の身体が一致している時に Well-being が高まることが明らかとなった。